

令和 5 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	32	学校名	茨城県立大洗高等学校						課程	全日制		学校長名		小貫 弘一				
教頭名	沢畑 雅彦												事務（室）長名		郡司 みどり			
教職員数	教諭	23	養護教諭	2	常勤講師	5	非常勤講師	6	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	2	技術職員等	4	計	46	
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科			18	13	18	19	24	12			60	44	5				
	普通科音楽コース			7	20	7	22	6	22			20	64	3				

2 目指す学校像

- ・生徒一人一人の自主性・自立性を伸ばし、豊かな人間性と人格の形成を目指す学校
- ・社会人として必要な知識と教養を身に付けた人材を育成し、保護者や地域の期待に応え、地域とともに発展する学校
- ・普通科及び普通科音楽コースの生徒が、学習、文化・芸術活動等で相互に協力し合う活力ある学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①自主・自立の精神を持ち、豊かな人間性と望ましい人格を兼ね備えた人財 ②時代や社会のニーズを捉え、社会人として必要な知識と教養を身に付けた人財 ③お互いを思いやり、学習面や文化・芸術面など多方面において協力し合うことのできる人財
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①高い目標に向けて幅広い知識や技術を修得し、上位学校への進学に対応できる学力を身に付けた生徒の進路実現（進学系） ②多種多様な資格取得を通して、社会における実践力・適応力を身に付けた生徒の進路希望実現（資格系） ③基礎学力の定着を重視し、地域社会のニーズに対応した知識と教養を身に付けた生徒の進路希望実現（教養系） ④音楽を通して文化的・芸術的な心身を育成し、関東・全国レベルの大会での経験を人生に活かすことのできる進路実現（音楽コース）

別紙様式 1 (高)

「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①基礎学力の定着を図りつつ、校内外の様々な活動に挑戦し、その経験を活かして高い進路目標を実現したい生徒 ②資格取得、生徒会活動、奉仕活動などを積極的に行い、自分の将来に活かしたい生徒 ③音楽が好きで、入学後に関東・全国レベルの大会で活躍を目指して日々努力し、その経験を将来に活かしたい生徒
-----------------------------------	--

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学 習 指 導	入学してくる生徒は勉強に対して苦手意識を持っていることが多い。また、基礎的な学習段階でつまづいてしまい、その上の発展的段階までは到達できていない生徒が過半数を占めている。それに対して、少人数クラス、ティームティーチングを活用し、きめの細かい指導を行い、基礎学力の定着に力を注いでいる また、授業改善のための手立てとして、I C Tを活用し、言語活動を充実させつつ、生徒主体で活動する授業に取り組んでいる。	生徒の実態を継続して的確に把握し、指導方法や指導内容の創意工夫に努め、生徒一人一人の学習意欲の向上や基礎学力の確実な定着を図る必要がある。 そのため、現在行っている少人数授業の指導形態などを工夫改善するとともに、I C Tの活用、言語活動の充実のための取組等、教職員の指導力をさらに向上させることが課題である。
進 路 指 導	令和4年度卒業生については、過去に引き続き100%に近い進路決定率を達成することができた。 就職に関しては、新型コロナウイルス感染症流行の影響が見られるものの、ここ数年の求人数は堅調に推移している。一方、本校の就職希望者の割合は以前に比べて低下傾向にあり、また、職業に対する意識が不十分なまま、就職活動期を迎える生徒も多い。 進学に関しては、生徒の四年制大学等への進学意識が高まっている。入試形態として学校推薦型選抜、総合型選抜による合格が大半である。	生徒が早期に進路目標を明確に持ち、その実現を意識した学校生活を送れるよう、三年間を通したキャリア教育の充実を図る必要がある。 就職指導では早い段階から望ましい勤労観を育む取り組みや、企業研究、求人開拓等をさらに推進する必要がある。 進学希望者に対して進路目標の実現、特に国公立大学への希望者に対して合格者を継続して出せる組織的な指導体制を構築することが課題である。

別紙様式 1 (高)

生徒指導	生徒は比較的落ち着いた様子で学校生活を送っている。 普段の関わりの中で、教職員と生徒が良好な信頼関係を築いている。 「ダメなものはダメ」を合言葉に問題行動等に関しては毅然とした態度で指導を行っている。 生徒の悩みへの対応として、SSWやSCを積極的に活用し、支援方法及び体制を確立している。	不登校や学習障がい等、また外国籍の生徒など特別な支援を要する生徒への対応については、学校全体で考え、組織的に課題を解決していくとともに支援体制を強化していく必要がある。 いじめ対応、問題行動等に関しては、日頃から生徒の様子を観察を行い、生徒理解に基づいた指導を行う必要がある。 精神的に不安定な生徒については、素早く情報を共有し、家庭や外部機関等との連携を密にし、生徒に寄り添った対応が望まれる。
特別活動	学校行事やボランティア活動などの様々な活動に対して、生徒会を中心に、生徒が主体的に取り組んでいる。 マーチングバンド部は、地域社会で広く学習成果を発表するとともに、全国大会において優秀賞を受賞するなど、積極的な活動を展開している。 昨年度から実施している放課後サークル活動により、多くの生徒が部活動・同好会に所属して充実した学校生活を送っている。	放課後サークル活動により多くの生徒が参加できるよう、指導方法・内容の改善を行い活動意欲の高揚を図るとともに、指導体制の整備が課題である。
働き方改革	校務分掌、多様化する生徒への対応、授業準備、小テストの作成・採点等のために、勤務時間内に業務を終えることができない教員がいる。総じて教員の負担が増加傾向があり、業務が特定の教員に偏る傾向も見られる。	教員の業務負担軽減に向け、特定の教員への仕事が偏らないように全職員で業務を分担し指導する体制の構築が必要である。生徒の多様化に対応しつつ、効率的な指導を心がけ、業務に従事する時間の短縮に努めるようにする。

5 中期的目標

- 1 基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚及び人間関係づくりを推進する。
- 2 学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。
- 3 生徒一人一人の資質・特性にあったキャリア教育を推進する。
- 4 特別活動、放課後サークル活動の充実を図る。
- 5 地域との連携を深め、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- 6 生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基本的生活習慣の確立、規範意識の高揚及び人間関係づくりを推進する。	①規則正しい生活習慣を確立させ、遅刻や欠席を減らし、社会性を身につけた服装・頭髪、身だしなみとなるよう指導を行う。 ②奉仕活動や清美活動に積極的に参加する態度を養い、勤労の心を育てるとともに、生徒の人間関係づくりを推進する。
2 学習意欲を高め、基礎学力の定着を図るために積極的に授業を改善する。	③基礎的・基本的内容を重視した教科指導の充実を図り、基礎学力の向上・定着に努める。習熟度別授業、少人数制授業、ティーム・ティーチングを積極的に取り入れ、全教科においてICTの活用、言語活動の充実、アクティブ・ラーニングの推進を図り、生徒の思考力・判断力・表現力等を育て、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ④生徒の実態に応じた指導内容の検討や副教材を精選し、生徒の学習意欲を引き出す。結果として生徒の授業に対する満足度の平均値が3.2を上回る。 ⑤校内検定の充実を図り、一般常識及び基礎学力を定着させる。
3 生徒一人ひとりの資質・特性にあったキャリア教育を推進する。	⑥進路相談室（学習室）の効果的な利用を促進するとともに、資料コーナーの充実や各種ガイダンスを通して、生徒及び保護者への情報提供に努める。 ⑦早期に進路目標を明確にさせるとともに、キャリア・パスポートを活用して生徒の特性を把握し、生徒一人ひとりの希望に応じた的確な進路指導の充実を努める。 ⑧個人面談やガイダンスを計画的に実施するとともに、生徒個々の進路目標実現に向けた指導力の向上に努める。
4 特別活動、放課後サークル活動の充実を図る。	⑨放課後サークル活動への加入率を高め、主体的に活動できる生徒を育成し、学校生活の活性化を図る。 ⑩生徒会活動や学校行事、ホームルーム活動の充実を図り、社会性や人間性を養う。
5 地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	⑪学校に関する様々な情報をホームページ等により保護者や地域住民に広報し、学校の教育活動への理解を図る。 ⑫教務部広報広聴係が主体となり、学校評議員や地域住民からの意見を聴取し、適切な対応を行い、地域に密着した学校づくりの一層の推進を図る。 ⑬学校行事への地域住民参加及び地域行事・活動等への教職員、生徒の参加を推進し、地域との連携体制を構築する。

別紙様式 1 （高）

6 生徒の積極的な活動に応じつつ、業務負担軽減のため、全職員で指導する体制の構築を図る。	⑭積極的な学びに対応するために、授業公開や授業研究、教職員研修を積極的に行い、質の高い教育の提供を目指す。 ⑮業務負担軽減に向け、全教職員が業務を分担しながら積極的に学校運営に参加できる体制を構築する。 ⑯効率的な指導や業務改善を図り、勤務超過の時間短縮に努める。
---	---